

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果					
		1	2	3	4	5	6
学位論文審査基準	1		◎	◎	◎	○	◎
	2	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	3	◎	○	◎		○	○
	4	◎	◎	◎	◎		
	5		○	◎	◎		○
	6	◎	◎	◎	◎	◎	◎

自然科学研究科生命科学専攻博士後期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	S 秀	A 優	B 良	C 可	D 不可
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえた的確性	申請された学位に妥当であると同時に、明確で適切な問題意識の下に、学術的又は社会的意義が認められる研究テーマが設定されている。				
	非常に優れている	優れている	標準なレベルである	標準的なレベルには至っていないものの合格であると評価できる	不十分である
課題を追求する上で方法論の適切性	研究テーマと当該研究領域に求められる研究方法により、実験等を十分に実施し、結果の処理や分析が適切なものである。先行研究と比較し相違を明確に提示した研究が進められ、得られた結果に進歩性が認められる。				
	非常に優れている	優れている	標準なレベルである	標準的なレベルには至っていないものの合格であると評価できる	不十分である
研究方法及び調査方法の妥当性	学内で定める研究倫理指針、人を対象とする研究の倫理審査規程、遺伝子組換え実験に関する規程、動物実験取扱規程、放射線障害予防規程を遵守している。				
	遵守している				遵守していない
結論の妥当性	博士論文の構成、論述が明確かつ適切で、結論に至る論理展開に一貫性が認められる。				
	非常に優れている	優れている	標準なレベルである	標準的なレベルには至っていないものの合格であると評価できる	不十分である
研究の独創性と研究分野への貢献	研究テーマ、研究手法、導き出された結論等に独自の価値が認められ、当該研究領域及び社会に貢献する優れた成果を提供している。				
	非常に優れている	優れている	標準なレベルである	標準的なレベルには至っていないものの合格であると評価できる	不十分である
その他	国際的なレベルでの高度な知識と技術を有し、協調性を持ちながらも独立した研究者及び専門家としての豊かな学識が認められると同時に、科学者としての倫理を理解し社会への責任を果たすことが期待できる。				
	非常に優れている	優れている	標準なレベルである	標準的なレベルには至っていないものの合格であると評価できる	不十分である